



撮影・三輪洋子

女性科学者に贈られる「猿橋賞」を受賞する東京大学准教授

# 顔

阿部 あべ

彩子さん あやこ 49

約2万年前の地球は、平均気温が5度低く、海面も130メートル低かったとされる。「氷期」と呼ばれる時代だ。当時の気候をコンピュータで再現し、地球の軌道変化や大気中の二酸化炭素濃度の減少が寒冷化を引き起こしたことを明かしてきた。「気候メカニズムを知ること将来の気候を正しく予測できる」と、受賞業績の意義を語る。

中学生の頃に読んだ本で、過去の地球が現代と違う姿だったことに衝撃を受け、研究者を志した。人類活動が気候を変えつつある現代。過去の気候を探る研究も重要性を増している。第一人者として「責任を感じる」という。

東大准教授（惑星科学）の夫、豊さん（52）とともに、3人の子育てと研究を両立させた。「末っ子が3歳になり子育ても一段落した」7年前、豊さんが筋萎縮性側索硬化症（ALS）を発症した。英国の物理学者ホーキング博士と同じ難病。夜中に起きて、寝返りを打たせてあげることがある。親の協力はあがるが、思い通りに研究できる環境ではない。それでも、「夫も私も、研究が一番の生きがい」。車いす生活の夫とともに、探究が続く。（科学部 三井誠）